

「にきび・吹き出物（尋常性痤瘡）」



ファイナカイロプラクティック

国井 継之介 Bappsc B.c.sc

「症状が出ている自分」↓
小腸経↓自分の声」
このEBに対して、PCR
Tを実施。
反応の陰性を、再検査に
てチェックした。

全ての反応に陰性が導か
れた事から、本ケースにお
けるケアを一度終了し、引
き続きメンテナンスとして
一カ月に一度の治療プラン
に変更した。

から、関係しているストレ
スをチェックして行った
所「砂糖」小腸「卵」と
いった、食品に反応してい
る事が検出された。

「砂糖」↓小腸経↓仕事
関係「顧客」怒り」

「小麦」↓大腸経↓仕事
関係「自分の将来」期待」

「卵」↓三焦経↓家族関
係「親」声」

各食品に関連したEBを
導き、PCR Tにてパター
ンの切り替えを行った。

術後、再検査にてEBを
評価、検出された陽性反応
が陰性になる。

＜回目：前回から三日後＞
前回よりも、赤みが減少
に炎症反応が治まってきて
いる様に観察された。

患者本人から、触れた際
の痛みが無くなっていると
いう感想を貰う。

主観的にも客観的にも改
善の兆候が見られている。
前回のEB項目を再チェ
ック。陰性であることを確
認。

今回は、乳製品をチェッ
クする。
「牛乳」チーズ「バター」
といった製品で、陽性反応
を確認する。

製品に関連したEBを、
神経言語反射にて検査を行
う。

「牛乳」↓小腸経↓自分
の声」
「チーズ」↓胃経↓香り」
「温度」
「バター」↓小腸経↓親
の声」「恥辱」

検出された、EBに対し
て、PCR Tを行い、潜在

化されたパターンを切り替
える。

術後の再検査で、全ての
項目に関して、陰性となっ
ているかの評価を行った。

＜回目：前回から一週間
後＞

初回から十日経過した
が、皮膚の炎症は殆ど消え、
痕が軽度残っている状態。

前回の治療後から日に日
に改善して行ったという感
想を頂く。

前回の治療の項目を再チ
ェック。
「牛乳」という項目で、
再度陽性反応が検出され
た。

細かく、EBの検査を行
った。
「牛乳」↓胃経↓栄養的
ストレス」↓「コーヒ」↓
「温度」

と言った陽性反応が検出さ
れた。

この反応に対して、PCR
Tを実施した。

術後、この反応が陰性に
なっているかを再検査し、
確認する。

＜回目：前回治療から一
週間後＞

初回治療時から、二週間
と少し。

症状は、改善し皮膚の炎
症は消失した。

今までの検査項目をもう
一度再検査し、陰性を確認。
この先、症状が出ている
自分の状態をイメージング
し、神経反射検査を行うと
陽性反応が確認された。

この反応に関連するEB
を、神経言語反射より検査
を行う。

ホルモン分泌やそれに関
わる皮脂の増加には、本症
例で確認されたように条件
反射が大きく関係している
と思われる。また、炎症に
関わる免疫系の働きも、神
経系を介した脳のストレス
が大きく関係している事
は、精神神経免疫学の
観点からも次第に明らかに
なってきた。

患者が症状の誘発が見ら
れるとして控えていた食品
が、気にせず食べられる様
になった事を考えると、メ
カニズムの先にある、より
根本に対するケアの重要性
をより痛感する。

【患者】

三十歳代 会社員 既婚

腰痛、肩こり、などで定
期的にフォロワーしている
方。

【病歴】

甘いものを食べると、次
の日から目元・口元に、ニ
キビ・吹き出物が出る。

乳製品を食べる事でも、
同様に症状の誘発がみられ
る。

学生時代にはなかった
が、社会人になってから、
この症状が気になりだし、
ここ一二年で顕著になっ
てきた。

ニキビ・吹き出物が出る
のは、顎・額・コメカミの
部分で、全て右側に出てく
るのが特徴。

症状がでて二週間〜四週
間で状態は改善してくる
が、いつまでも消えないで
数カ月経過する事が今まで
しばしばあった。

【検査】

心身条件反射療法(以下、
PCR T)による、神経反
射検査、ならびに神経言語
反射を使用し、「経絡」「五
感」「感情」を評価し検査
を行った。

【治療】

〈初回治療時〉

神経言語反射にて、症状
と関連した、エネルギーフ
ロック(以下、EB)を検
査した。

甘いもの食べるイメージ